



# サメガレイ (太平洋北部) ①

サメガレイは北海道および東北地方の太平洋岸沖に広く生息している。本資源は青森県から茨城県沖を対象としているが、千葉県の漁船と漁場を共有している場合がある。



図1 分布図

水深150~1,000mの砂泥底に分布する。本資源は主に青森県から茨城県沖で沖合底びき網漁業（沖底）によって漁獲されている。



図2 漁獲量の推移

全漁業種の漁獲量情報が得られている1997年以降の漁獲量は200~250トン前後で推移している。2011年には157トンまで減少したが、その後は200トン前後で推移している。2020年は218トンであった。

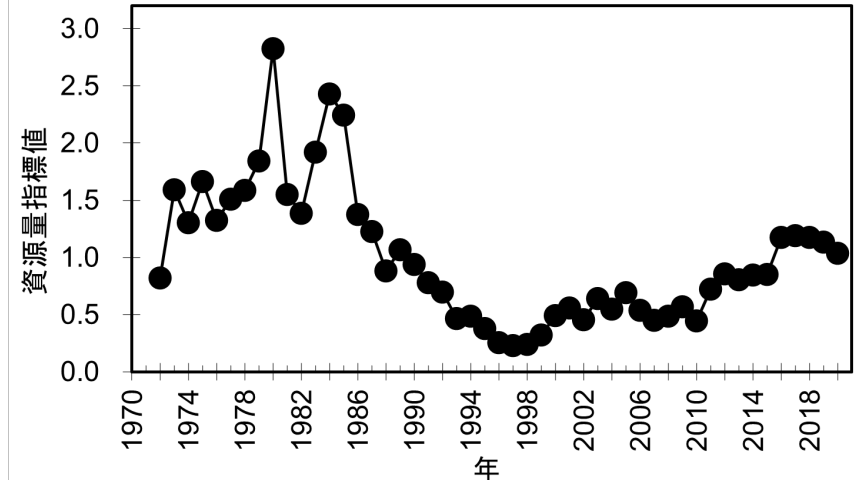


図3 資源量指標値の推移

金華山海区以南における沖底の標準化CPUEを資源量指標値（平均値を1とした）に用いた。1970~1980年代は平均値以上で推移していたが、その後減少し、1990~2015年は平均値以下となった。2011年以降は回復し、2016年以降は平均値以上となり、2020年は1.04であった。

本資料における、管理基準値、禁漁水準、将来予測および漁獲管理規則については、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）における検討材料として、研究機関会議において暫定的に提案されたものである。これらについては、ステークホルダー会合を経て最終化される。なお、本資料においては千葉県漁船による漁獲量は考慮されていない。

# サメガレイ (太平洋北部) ②

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって「令和3（2021）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

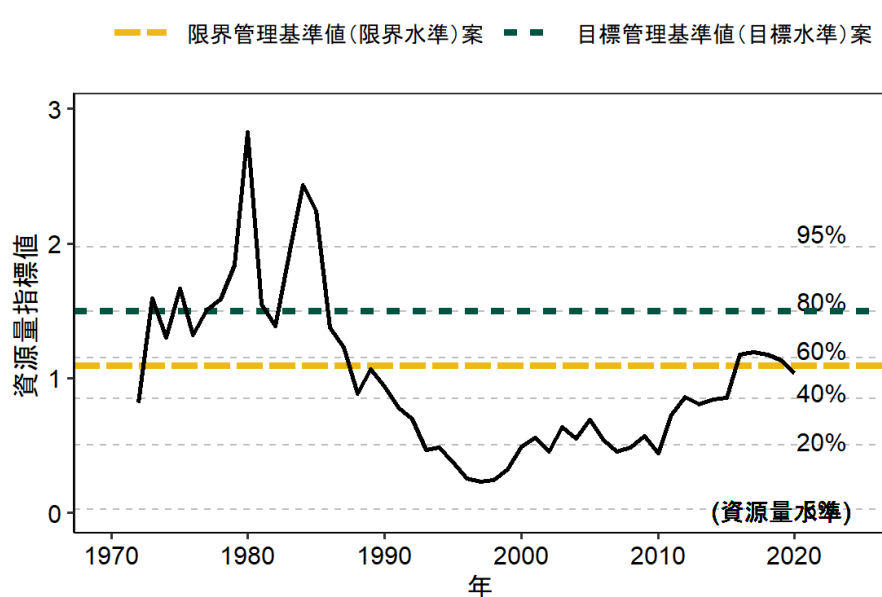


図4 資源量水準および管理基準値案

資源量指標値（黒線）の推移から求めた資源量水準に基づき、80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2020年の資源量指標値（1.04）は52%水準に相当するため、限界管理基準値案を下回る。

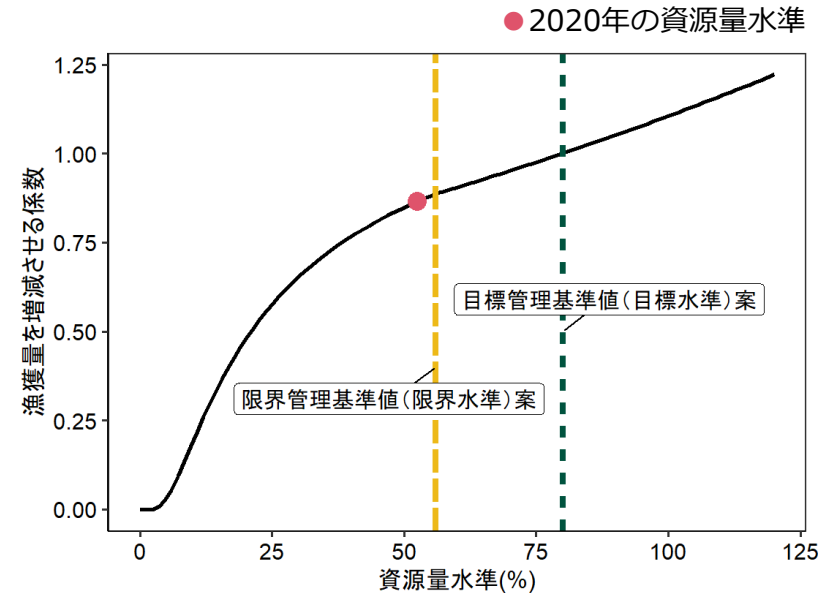


図5 漁獲管理規則案

資源量水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源量水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2020年）の資源量水準（52%）における漁獲量を増減させる係数（赤点）は0.865である。

# サメガレイ (太平洋北部) ③

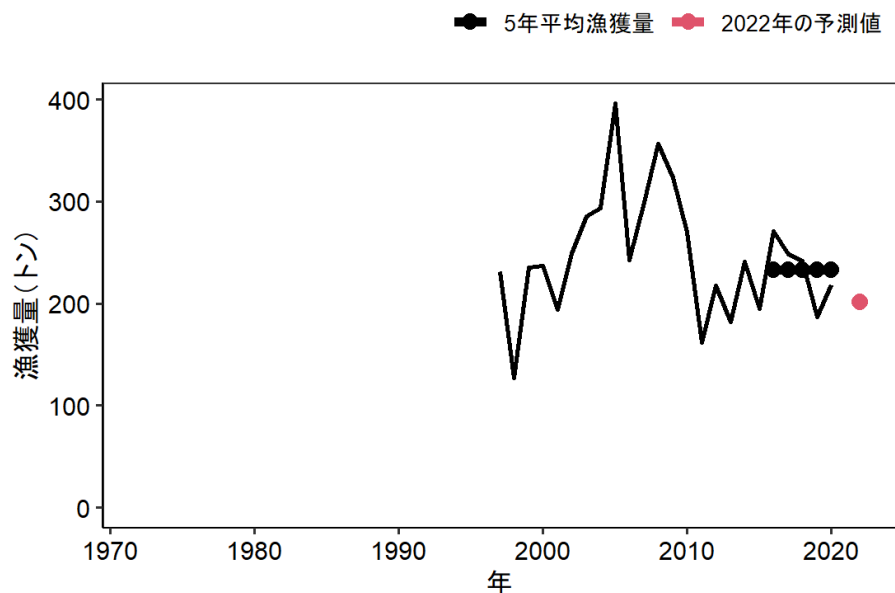


図6 漁獲量の推移と2022年の予測漁獲量

直近5年（2016～2020年）の平均漁獲量（黒丸、231トン）に2020年の資源量水準から求めた漁獲量を増減させる係数（0.865）を乗じて算出される2022年の予測漁獲量は、200トン（赤丸）となる。図中の漁獲量は全漁業種の漁獲量情報が得られている1997年以降のみを示している。

	資源量 指標値 (kg/網)	資源量 水準	漁獲量を増減 させる係数
目標管理基準値 (目標水準) 案	1.498	80%	1.000
限界管理基準値 (限界水準) 案	1.089	56%	0.887
現状の値 (2020年)	1.037	52%	0.865

資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。2020年の資源量水準は52%であることから、2022年の予測漁獲量は200トンと算出される。